

# 令和5年 第4回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和5年4月21日（金） 午後2時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 4階 議員執務室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者  
櫻田尚 教育総務課長、木村武俊 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後2時00分
- 6 令和5年第3回教育委員会定例会会議録の承認について  
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。  
舟山委員、小山委員 署名。
- 7 教育長報告  
(1) 一般事務報告  
報告第7号 令和5年度町立小中学校児童生徒数について  
報告第8号 令和5年度要保護および準要保護児童生徒の認定について  
教育総務課長より説明 異議なし  
  
(2) 専決事務報告 なし
- 8 議 事  
議案第16号 大河原町文化財保護委員の委嘱について  
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。  
議案第17号 大河原町文化財保護協力員の委嘱について  
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。  
議案第18号 大河原町社会教育委員の委嘱について  
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。
- 9 その他  
(1) 教育長報告①（校長会資料による報告）

## **1 新体制でのスタートを祝う**

3名の新しい小学校校長の紹介

## **2 全国学力・学習状況調査に向けて**

全国学力・学習状況調査について、前日、当日、翌日の学校での対応を説明

## **3 志教育の推進**

昨年度は、両中学校において齋町長を講師として志教育講演会を開催した。今年度は大河原町出身の佐藤陽二氏にお願いする。ぜひ、子どもたちへメッセージを送ってもらいたいと考えている。

## **4 学力向上の取組**

これまでの学力向上の取組として行ってきたものを説明。学校経営にぜひ活かしていただきたい。

## **5 不登校児童生徒に関する取組**

町では、発達障害等を有する児童生徒の割合が国の平均を上回っており、今後、特別支援教育支援員の増加を考えて行く必要がある。

## **6 体力向上の取組**

昨年度までは、県の研究指定校として体力向上の取組を実施してきたが、終期を迎え、今後は、町の予算にて、児童生徒の体力づくりを継続して取り組んでいく。

## **7 豊かな心の育成に関する取組**

全学級道徳授業の日の説明

## **8 その他**

教育事務所所長の話や土曜子供塾の説明

### **(1) 教育長報告②（校長会資料による報告）**

#### **1 WBC 決勝での大谷翔平選手の声出し**

学級内の子供たちにも、級友等へのリスペクトを持って生活してほしいものである。成績や運動能力等の高低で人間の価値は決まるものではなく、人は、生きているだけで価値があるということを教えてほしい。

## 2 授業づくりを基盤に安心できる学級をつくる

### 3 中教審答申「対話的学び」に関する記述

対話から繋がりを作っていくのが大切。授業づくりが学級づくりである。大河原の子供たちは、分からないことが恥ずかしいことではないということをはっきり言える。周りもいっしょに考える授業。集団の中で学ぶことによって、安心感や充実感が得られるのは、やはり、「対話的学び」である。

### 4 「馬を走らせ花をみる 馬を降りて花をみる」

学校のリーダーである校長にとって、全体も個もみていくことで、学校経営の方向性もみえてくる。

### 5 特に配慮が必要な児童生徒に対する対応

子供の心が分かるか、といわれれば、よく分からないものだが、分かろうと努めることが大事なのではないか。その過程で、子供の心に触れる瞬間が生まれてくる。

### 6 算数科における資質・能力の育成（笠井健一）

過去の全国学力・学習状況調査問題から、正答率が低い問題の学び直しが進んでいないという。定着率の低い問題は授業で繰り返し取り組ませたい。

### 7 その他

学校経営等、人事関係日程、教職員の事故防止、教職員に対する校長の指導などについて説明

丹羽委員	中学生の時に不登校だった生徒の就職率の話。平成18年の文科省調査では、中学生のとき不登校だった人の81.9%は20歳のときには、就労、就学しているという結果がある。すごいと思う。しかし、不登校が増えてきているのが心配である。子どもたちが安心して成長できる環境づくりが大事。先生方、親は子への感謝の気持ちが大事である。
舟山委員	卒業式や入学式の出席名簿の話。男女別の名簿を男女一緒の名簿にしても問題ないと思う。変えていく必要があると思う。
一盃森委員	時代が変わり、体育の時などだけは男女別が良いと思う。 学校の管理職は一定の年数で変わる。ところが、子供たちは大河原で教育を受けて、最低でも9年を学校で生活する。管理職は変わるので、大河原で積み上げてきたことの継続が難しい状況の中、教育長自らまとめて、年度当初に説明していただき、現場の先生の励みになる。 目指すべき目標があり、どうやって到達するのかゴールを明確に示してい

	<p>る。大河原での今までの取組の提示がすごく大事なことである。</p> <p>対話的学びの話。一人一人の子がいるので、一番最後の子もいっしょに学ぶのが大事。形だけの授業にならないようにしてほしい。</p> <p>町で作成した教材などを活用していくのが大事。</p>
鈴木教育長	<p>タブレットを使った授業展開をしてほしい。先生方の自己評価について、自分の授業の反省をよく考えて、今後活かしている。すばらしいと思う。</p> <p>若い先生方にも伝えていきたい。</p>
小山委員	<p>土曜子供塾の話。土曜子供塾出身者の感想を伝えていければ良いと思う。子供たちにもっと知っていただきたい。</p>
鈴木教育長	<p>全員が希望した高校へ合格したことを募集要項に載せた結果、今年度は参加希望が多かった。実績は必要だと思う。</p>
舟山委員	<p>土曜子供塾の中途参加は可能か。転入してきた人が土曜子供塾を知らないのではないか心配である。</p>
鈴木教育長	<p>中途参加について、問題ない。</p>
小山委員	<p>教育長報告①P17 不登校の就職率の話。不登校のご家庭への周知は必要であり、励みになると思うのでぜひ伝えてほしい。</p>
丹羽委員	<p>どの子が不登校になるか分からない時代。ちょっとした事でも不登校になる。学校は成績を付けられるが、家庭では子に対し100点で迎えてあげてほしい。子どもは安心できる。子どもを認めてあげるのが大事。愛情が大事。学校の先生も親も忘れないでほしい。</p>
小山委員	<p>教育長報告②P4 保護者の初期対応の話。コロナで先生に会う機会がなかった。保護者が、相談しやすい環境作りが大事。些細な事でも担任の先生と相談できる環境が良い。</p>
丹羽委員	<p>いろいろな先生方がいる。個性を活かしての助言があっても良いと思う。</p> <p>先生方が苦勞しない工夫があっても良い。出来るだけ先生方には児童生徒と一緒にいてほしい。</p>
一盃森委員	<p>変化はしていかなければならない。教育は一人一人の対応が大事。校長が変わればカラーも違ってくるが、教育委員会として積み上げてきたことの話を年度当初にすることは、ありがたいと思う。</p>

## (2) 各課長報告

### 教育総務課長、生涯学習課長

令和5年度計画、行事予定について説明。

**10 次回教育委員会の開催日程について**

鈴木教育長 | 次回の定例会教育委員会は令和5年5月19日（金）午後2時から開催する。

**11 閉会宣言 午後3時30分**

令和5年5月19日

署名委員

署名委員